

# 木 六 山 報 告

笠 原 正 雄.

目的地	木六山	期 日	平成16年8月8日(日)
山行人	笠原正雄(単独)	天 候	晴

- 3:30 目覚める。朝食。
- 4:40 自宅発。途中加茂駅でトイレ。村松市街で道を尋ねる。
- 6:45 駐車場に着いた時、単独50才前と思われる男が入山するところであった。一声交わす。ほかに軽1台が有ったのみ。結果的には入山は二人のみ。コース案内図板と登山カード提出箱があり、これに記入する。左に水無平入口、右のグシノ峰方面に行く。入口に「熊・蜂・ヒル注意」の看板有り。ヒル予防にスパッツ・防虫スプレー。
- すぐに沢に降り、滑りそうな橋を渡る。沢を巻く斜面の足元の不安定な道。慎重にならざるを得ない。続いて平坦な杉林を歩く。湿気が多い。
- 7:00 右に堰堤小屋。しばらくして左折、急登、尾根に取り付く。
- 7:25 5分休む。緩やかな尾根道。
- 7:50 尾根の右を巻く道。ロープ有り。再び尾根道へ、右手前方に岩肌が見える。更に急登が続き左に沢筋、その上方にグシノ峰が見える。ストックを腰に差し、ロープ・根につかまりながら登る。
- 8:15 7分休む。急登の途中こらえきれず木の根に腰をおろす。
- 8:25 一つのピークでもう一度腰をおろす。
- 下って登ってグシノ峰へ。ところどころ岩肌の道。ヒメコマツが高山っぽい感じがする。左右が良く見渡せる。右に削り取られた岩壁が見える。峰通過3~4分。
- 8:40 峰から少し下って登りに。
- 9:10 10分休む。山頂手前の鞍部で降りてくる先行の単独者と逢う。互いに「ファミリー登山の範ちゅうではない」旨の会話を交わす。
- 9:45 鞍部から急登。ロープ2ヶ所を経て平坦路、分岐を右に行き山頂。守門・粟・浅草・鬼が面・菅名。チーズパン・ウイスキー・ポタージュ。
- 10:35 スパッツをはずし膝サポーターを着け、七郎平方面に進む。すぐ折返し分岐で水無平コースへ。雑木と草の斜面でいやな感じの道が少し続く。ロープで上がりきれいな道へ。途中山頂への分岐有り。
- 11:16 焼峰の神様。見過ごすほどの石と地面に落ちた道標、割れたワンカップ、さい銭10円・5円玉数枚が道端にあるのみ。急降下へ、その後時折草で道が隠れてしまう。
- 11:40 5分休む。比較的気分のよい雑木林の緩やかな下りを歩いたのち草道の手前で休む。すぐに水無平と思われるが腰を超える草やぶ、このやぶの中で右腿がつった。不安感に取りつかれるも、だましだまし進むうちに快復する。
- 11:56 草やぶを過ぎて道標有り、T字路で道標には書かれて無いが右手に悪場峠への道と思われる。しばらくして、背丈ほどの草とそこに有る道標の読み違い(後でそう思った)から、迷ってしまい少し逆行して分岐の見落としが無かったのかの確認動作をするも分らず。更にコース外に降りてかがみ込んで道を探すも分らず。元に戻ろうと上がっていったら、さっきの草やぶを過ぎたきれいな道に出てホッとした。このあたりからアブがまとわりついてうるさい。
- 12:30 10分休む。急降下して小沢渡り。顔を洗い、枝沢の水を飲む。センバイで一休み。
- 13:03 小さい登り降りを繰り返して駐車場着。高度計200m。与板着15:00

田中保夫氏の報告で以前から気に留めていた山。先々週弥彦、先週妻と黒倉・鍋倉山を経ての入山である。思っていた以上にキツイ。4年ぶりに急登に喘いだ。グシノ峰は気分良好。下山の草やぶには閉口した。金城での経験が活かされた感がある。

終わってみれば、急登と草やぶでひとときも退屈しない山行であった。